

自己理解を深める読書指導

－読み聞かせやホームルーム活動での一提案－

高知県立高知小津高等学校 教諭 桐田 涼

自己理解を深めるためには、自尊感情を高めることや、他者理解及び価値観の多様性に気づくことが必要である。本研究では、読書指導を通して自己理解を深めることを提案する。

今回、小学校及び高等学校において、ねらいを明確にした意図的な読書指導を行った。読み聞かせやホームルーム活動での実践を行う中で、かわり合うこと、聞き合うことの重要性和課題が見えてきた。そこで、仲間同士が互いを高め合う人間関係づくりの理論と手法を読書指導に取り入れ、クラスみんなで聞き合う環境をつくる、自分の好きな本を友だちに紹介する、自他の価値観の違いを知る提案などを行った。これらの提案を学校教育における読書活動の充実に繋げたい。

キーワード：読書指導、読み聞かせ、自己理解、他者理解、人間関係づくり

1 はじめに

読書は、人生をより深く生きる力を身につけていく上で不可欠なものである。このことは「子どもの読書活動の推進に関する法律」の基本理念に示されている。また第2期「土佐の教育改革」でも「豊かな心を育む教育の推進」として読書活動の充実があげられている。脇明子（2005¹⁾）によると、「現在、子どもたちを取りまく環境は急速に変化している。実体験の場の減少、コミュニケーションや自己理解の不足など、特に自分に自信を持つということが難しくなっている。そのような中で、かつて子どもたちの周囲にあった、生きていくのに役立つ『うまい助け』を得ることはどんどん困難になっている。この世の中で様々な問題を乗り越えていくために、読書は大きな助けになる。」と述べている。

また近年、不登校や友人関係がうまく結べない子どもが問題となっている。それは自尊感情の低さや、多様な価値観をもてず、固定化したものの見方、考え方をすることに起因するとも言われている。自分を十分理解し、自分を大切な存在として認める、また多様な価値観を知り、すぐそばにいる友達を理解していくといった面を育てるには、教科の学習をはじめとして豊かな体験が有効だと思うが、脇の言葉にもあるように、読書もまた大きな力を持っている。

そこで、本研究において、人間関係づくりの理論や手法を取り入れた、自己理解を深める読書指導を提案することは、第2期「土佐の教育改革」の柱の「豊かな心を育む教育の推進」をより具体化することになると考える。

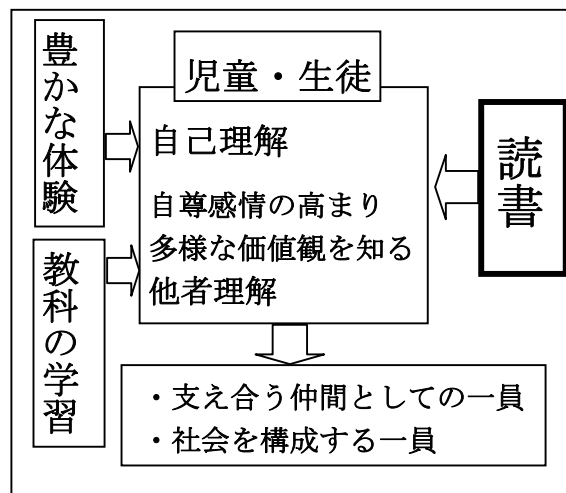


図1 読書の役割

2 研究目的

本研究の目的は、意図的な読書指導を行うことによって、自己理解・他者理解を深めていくことができるのではないかと検討することにより、小学校では、「本を好きになる」「本に興味・関心を持つ」「読書習慣の基礎を作る」ことをねらいとする。また高等学校では、読書による自分探し

(自己発見)、コミュニケーション能力の育成、キャリア教育に繋げることをねらいとした。

3 研究内容

(1) 読書指導の基礎研究

① ブックトーク

テーマを決め、そのテーマにふさわしい本を5、6冊から10冊くらい選び順次紹介していくものであり、テーマは子どもたちの実態によって決定する（子どもたちが興味関心を持っているもの）。シナリオを書き、子どもたちの前で語るという形態を取る。今回は紙面上のブックトーク（ペーパーブックトーク）も取り入れ、自分のペースで読むことや読み返す、自分のブックリストづくりのモデルにすることもねらいとした。

② 読み聞かせ（県立図書館主催：子どもと読書研修会参加）

読み手の読書体験や感動を子どもたち（聞き手）と、また子どもたち同士が感動の場を共有することをねらいとして読み聞かせを行った。耳と目と心とを合わせた「聴く」力をつけるために今回は、絵本を教材として選定した。

(2) 人間関係を育てる手法の基礎研究

「読書指導」と「人間関係を育てる手法」を融合した意図的な読書指導を考えた。構成的グループエンカウンターや心の冒険教育の手法を児童生徒の発達段階や実態に合わせて取り入れた。

① 構成的グループエンカウンター(Structured Group Encounter 以下SGEとする)

SGEは國分康孝氏によって「ありたいようなあり方を模索する能率的な方法として、エクササイズという誘発剤とグループの教育機能を活用したサイコエジュケーション（心理教育）である」と定義されている。エクササイズには「自己理解」「他者理解」「自己受容」「自己主張」「信頼体験」「感受性の促進」という6つのねらいが設定されている。

活動の一時間は、インストラクション（本時の意義や目的を述べ、実践するエクササイズのねらい、やり方、留意点、コツを説明する）→エクササイズ（＝誘発剤。エンカウターの6ついずれかのねらいを達成するための行動）→シェアリング（お互いの固有の体験を共有すること。本人の気づきを引き出し、周囲の生徒の他者理解をすすめる）→まとめというように流れる。エクササイズは児童・生徒の実態に応じた形、リーダー（支援する教師）の力量に合わせて変化させる「アレンジ」の必要性が述べられており、今回は本や読書を取り入れたエクササイズとした。

② 心の冒険教育（プロジェクトアドベンチャー）

心の冒険教育は人とのふれあいに焦点をあて、仲間と一緒にお互いが助け合い、協力をしながら体験活動にチャレンジしていくものである。その体験はグループでの活動で、過程には様々な気づきや楽しさ（人と関わる楽しさ、新しいことを知る楽しさ、自分が成長していく楽しさ）がある。この活動は安心できる環境の中で行われ、活動を通じて問題解決能力、自己決定能力を身につけ、「生きる力」を養うことができる。今回は安心して活動できる環境づくりを意識させるためにビーイング（子どもたち自らが活動のルールを作る）を活用した。

(3) 児童生徒理解、学級把握・分析

楽しい学校生活をおくるためのアンケートQ-Uを活用し、学級全体の雰囲気や一人一人の実態把握を行った。

(4) 本の選定・資料の作成

読み聞かせの選書にあたっては、村上淳子（2005²⁰）が言う、「まず子どもたちの実態、生活の様子や何に興味関心を持っているかを知る、大人が『聴かせたい』本ではなく、子どもたちが『聴きたい』本を選ぶこと。」を第一とした。また、絵本は簡潔でかつ最も心の奥底に響くものであり、誰が読んでも楽しく、心温かくなる。子どもの目線で書かれたものが多く、子どもの興味関心に即している。そのため県立図書館や選書のためのさまざまな本、読み聞かせを実践している他県の先生

方のホームページなどを利用した。

生徒各自が活動できるように資料はワークシートで提供した。

読み聞かせやブックトークで使用する本は、活動後子どもたちが実際に読んだり手に取ったりできるように原則として学校図書館や公共図書館にあるものを利用し、貸し出し等も行った。

(5) 実践研究（6月～3月）

協力校 A小学校3年生 37名・B高等学校1年生 37名

4 小学校での実践（毎週水曜日、朝の読書の時間8時15分～8時25分 計23回）

心の冒険教育の手法を取り入れた読み聞かせ活動「わくわく楽しいブックタイム」を実施した。活動名も子どもたち自身が決定した。事後指導として読書通信（「わくわく楽しいブックタイムつうしん」）を学級に掲示した。

(1) Q-Uから見える学級の様子

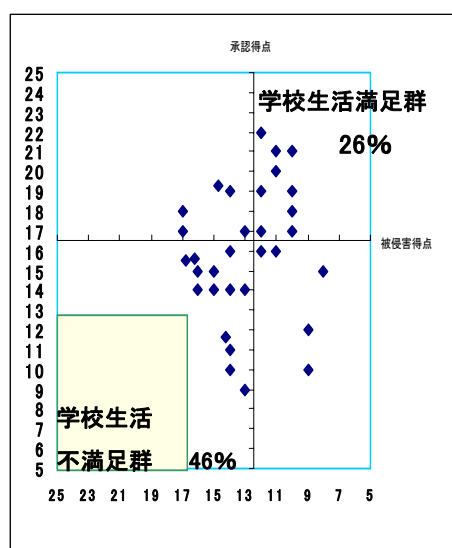


図2 Q-Uアンケート（6月）

Q-Uから見える学級や子どもの変化を知るため、6月と1月の2回アンケートを実施した。

男子が3分の2を占めるにぎやかな学級である。活発に活動できる反面、「落ち着いて聞く」「動から静への切りかえ」が難しい児童が多いと学級担任より聞いた。

6月のQ-Uの結果から見ると、学校生活不満足群の子どもが半数近くおり、学級生活の基本ルールが守られにくい状態で、学習をする環境づくり、ルールづくりが課題だと考えられた。女子の8割は学校生活満足群に位置しており、まじめでおとなしい子が多いが、自分の意見を集団の場では出しにくいように見えた。

教室での様子を合わせてみても、集団として「聞く」という部分が弱く、ルールの徹底の必要さを感じた。そこで、ビーイング、アイスブレイキングにより学級に学び合う環境づくりを行いながら、読み聞かせ活動を実施した。

(2) 活動（わくわく楽しいブックタイム）

さまざまな場面で子どもたちに声をかけ、小さな事でもほめ、役割分担を与えるように心がけた。学級担任も子どもと同じ立場で活動に参加してもらった。

① ビーイング

子どもたち自らが活動のルールを作っていくもので、この学級では、「楽しく本を読み、聴く、共有の場でどのようなことに気をつけていったらよいか」について話し合った。そこで子どもたちが決めたルールは右のように紙に書き、活動のたびにルールの確認をした。

活動を続ける中で、支援者が「静かにして。」と注意するのではなく、子どもたち同士が注意しあう場面が目立つようになってきた。ルールある学級という環境が作られつつあるように感じた。

② アイスブレイキング

活動当初は読み聞かせのみの活動を行っていたが、子どもたちの集中力は低く、学級担任との相談の結果、読み聞かせの前に体と心をほぐす（アイスブレイキング）活動を取り入れることにし、元気度チェックやジャンケン列車を行うことにした。最初はジャンケンを嫌がる子どももいたが、次第に楽しく活動でき、読み聞かせ前の心の準備ができてきた。このことは、子どもたち同士のかかわりを深め、場と感動を共有する読み聞かせ活動の充



資料1 ビーイング

実に繋がったと思われる。また「子どもたちが個々に体を動かし、声を出す」ということは、一種のストレスマネジメントであり、その後の集中力を高める要因になった。

③ 読み聞かせ

読み聞かせは一回2冊を基本として活動の流れを考えたが、子どもたちの実態に合わせて読む冊数を変えたり、詩集を利用したりすることもあった。読んだ本はクラスに貸し出し、子どもたちが手に取り、読むことができるようにした。

持参したものの、時間の都合で読めなかった本にも子どもたちは興味を持つようになってきた。希望に応える意味で、本の表紙を見せたり、次週の活動時に読んだり、クラスに貸し出したりした。

国語の教材として取り扱われている内容のものも読み、授業を深めていく選書にも取り組んだ。

④ 通信（ペーパーブックトーク）

第8号
わくわくブックタイムつうしん
平成17年10月19日

★わくわく楽しいブックタイムを楽しく過ごすために★

君たち 一人一人ができることは★

ジャンケン列車をふくめて「わくわく楽しいブックタイム」を楽しく過ごすためにみんなはどんなことに気をつけているかな？

- ・いっしょうけんめい活動している。 ・友だちと仲良くしている
- ・静かに聞いている。 ・友だちを大切にしている
- ・先生のいうことをよく聞いている。 ・集中している

などいっぱいあるよね。自分のできることをいっしょうけんめいにやっている姿、見えています。さらに成長していくために今度は、まず自分の目標を決めることから始めよう。みんながだよ。そして、活動が終わった時、決めた目標が達成できたか考えてみよう。そうしていれば君たちはもっともっと成長できるよ!!

8回目の「わくわく楽しいブックタイム」の時間は、今までの中で一番いい時間だったと思います。「ジャンケン列車」もみんな積極的に参加していたし、その後の「読み聞かせ」も集中できていました。

すごいね、3年生は、前回の反省をみんながしっかりと考えてくれた結果だと思います。坂田先生が「時間を大切にせよ」と言っていたことをみんなわかったんだなあと感じています。

うまくいかなかったことをきちんと次に生かしていける力は本当に大切です。これから3年生のすごいところをいっぱい見せてくださいね。

★次も楽しい時間にしていこうね★

★今回読んだ本は……★

「ぶたのね」 「わゴムはどのくらいのびるのか？」

「ぶたのね」
作・絵：佐々木 マキ
佐々木マキさんの本はあしきなお話がたくさん

「わゴムはどのくらいのびるのか？」
作者：マイク・サー
（きだまり 訳）
絵：ジェリー・ジョイナー

↓

女の子と犬が、いつものように庭へ遊びにいくと、見たことのない家が建っていました。お孫から「たすけてくれ」と小さな声が聞こえてきました。女の子と犬が、近づいていくと、声はテーブルの上においてある穴のふたのなかから聞こえてきます。かんづめをあげると、牛からゾウやクマやゾウが飛び出してきて、森の奥へ逃げていったのです。いつのまにか帰ってきた魔法が、お孫の戸口にひびいていました。怒った魔法が現文を奪えと、女の子と犬はかんづめにきされてしまいました。さあ大変！

「わゴムの話」
ひろびつらの
おおかみは、仲間を求めて、ぶたの洞、うさぎの洞、とさまよいますが、どこへ行っても仲間はいません。

「わゴムの話」
やぎのムッシュ・ムニエルはまじまじと、千どろをきかっで、苗子にしようと思へてきました。ムニエルの呪文で変な顔の娘になった小さな娘は、元気そうなお子をつかまえたのです。

わゴムの話

水を落とすと、ゴムは伸びる。逆に跳ねを落とすと、「ムニエルは、これホント??」……かきめてみてホントだよ

わゴムはどれだけのびるのか？
(実験) へいさん50cmから55cmも伸びる
一番長く伸びた結果は60cm私たちの身長半分も！

わゴムもなかなかの優れもの?

わくわく楽しいブックタイムつうしん

おもしろい本の中のことをも、おもしろく見よう

表1 読み聞かせに使用した絵本

ねえ、どれが いい	ジョン・バーンガム	アリからみると	桑原隆一
やさいのおなか	きうちかつ	ほんとだってば!	マサ・メイ
やまも第28集		やっぱりおかみ	佐々木マキ
がいこつさん	五味太郎	さる・るるる	五味太郎
ほね	堀内誠一	かいじゅうがおふろにいるよ	グレイブ・ソ
のはらうた	工藤直子	さる・るるる-ONE MORE-	五味太郎
ぞうからかうぞ	石津ちひろ	もうどうけんドリーナ	土田ヒロミ
これはのみのびこ	谷川俊太郎	サンタクロースってほんとにいるの？	てるおかいつこ
大あらし	デヴィッド・ウィズナー	サンタクロースと小人たち	マリ・クナ
もっちゃうもっちゃう もうもっちゃう	土屋富士夫	こうもりくん	ゲルダ・ヴァグナー
ばけものつかい	川端誠	いっぽんぼし わたる	五味太郎
きみは しっている	五味太郎	月人石	谷川俊太郎
にじいろの さかな	マカス・フィスター	ちいさな1	ア・ランド
おつきさま	やすいすえこ	オオカミクン	グレイブ・ソ
ぶたのね	佐々木マキ	ぼく、だあれ	天野祐吉
わゴムはどのくらいのびるのか？	マイク・サー	ゆげ	大沼鉄郎
おなら	長新太	ふしぎなナイフ	中村牧江
おぼけの一日	長新太	1ねんに365のたんじょう日プレゼントをもらったペンジャミンのおはなし	ジュディス・パレット
ぼくはおこった	ハウイン・アソ	三つのお願い	ルー・クリフ
おいしいおぼけ	マサ・メイ	ゆきのひ	エズ・ラ・ジャック・キツ
チーターよりはやくはしるのはだあれ？	ロバート・E・ウェルズ	わたし	谷川俊太郎
キャベツくん	長新太	とりどりのとり	佐々木マキ
となりのせきのますだくん	武田美穂	ゆうちゃんとめんどくさいサイ	西内ミナミ

読書の習慣、興味づけのために本の表紙や内容を掲載した。また仲間づくりを取り入れた読書活動を行ったのでルールの確認や子どもの様子なども紙面に載せた。B4サイズでカラー印刷を行い、教室の掲示板に貼った。

活動時は黒板に掲示しているので、何人かの子どもたちは、「この本は読んだことがある。」「この本はどこで借りることができるのか。」など興味関心を持って話をしていた。

この通信は活動と同じ回数（23回）発行し、読み聞かせ活動で読んだ本以外に通信で紹介した本は、144冊になる。国語の教科書（「新編新しい国



資料4 わくわく楽しいブックタイム通信 20号



資料5 通信

(3) 活動後の感想やQ-Uから見える学級や児童の変化

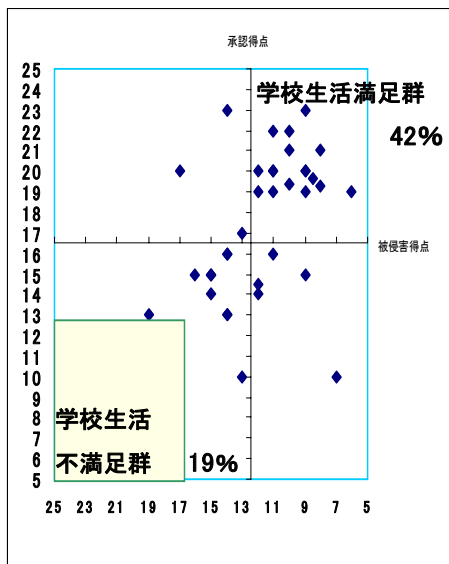


図3 Q-Uアンケート (1月)

1月のQ-Uを6月のものと比べて見ると、学校生活満足群に位置する子どもが42%と増えたことがわかる。学校生活不満足群から大きく伸びた子どももいる。全体的に承認得点が高くなったことから、学級にルールが確立しつつあり、落ち着きがでてきたことがわかる。河村茂雄(2004³⁾)の言う「学級生活を主体的に送ろうとする意欲」のある状態に変化しつつあると言える。

実際の活動の様子を見ても、あいさつも良くでき、明るく、多数の子どもが活発に動くことができるようになってきた。要支援群に位置する子どもたちも、活動の中で積極的に動いている姿が見られるようになってきた。

読み聞かせ活動だけで子どもたちが変わったわけではないが、子どもたちのよさを見つけようとしたこと、また学級担任の日々の指導や、学校全体で取り組んでいる様々な指導などにより、学級全体が変化してきたと言える。

また、今回の読書指導によって、子どもたちの心の動きがわかるものとなった。「集中力がついた。」「子どもたちの目が輝いてきた。」「子どもたちの座る場所が前になってきた。」など、自ら本を楽しもうとする積極的な態度が見られ、「聞く」から「聴く」に変化してきたと言える。

活動終了後の感想は、「おもしろかった。」「楽しかった。」だけではなく、自分の心に残った本の題名や内容に触れるものが大半を占めた。「読んでくれた本を自分でもまた読みたい。」「本が大好きになった。」という感想や、次年度も活動を続けてほしいと希望する子どもがほとんどだった。

5 高等学校での実践（ロングホームルームの時間 3時間）

(1) 学級の様子

「騒がしいクラスです。」という紹介を受けた。クラス全員が騒がしいというのではなく、一部の生徒が騒いでいるという印象だった。実践の日は朝の読書の時間からクラスに入ったが、生徒たちは落ち着いた様子で読書をしていた。また授業時の生徒の様子も、活動に真面目に取り組み、積極的な態度であった。ただ、仲間とのかかわりは弱く、個人行動をとる生徒が多いように感じた。

(2) 活動

個人の読書の深まりをねらうとともに、読書の幅を広げ、自己理解・他者理解の促進のきっかけとなる活動を行った。コミュニケーション能力やソーシャルスキルの不足、自分の意見を他人に伝える自己主張が苦手だという実態から更に枠を与え、自己理解・他者理解のねらいが達成できるような工夫を行い、キャリア教育に繋げる内容をも目指した。高等学校学習指導要領、特別活動の内容Aの(2)ア、(3)に沿ったものとし、教育課程に含まれるものとした。

一時間の進め方は、アイスブレイキング、ねらいの確認、エクササイズ、シェアリング、まとめ、ふり回りカードの記入とし、支援者自身が自己開示を行いながら、学習活動のモデルとなるように仕組んでいった。活動人数は生徒のリレーションを形成していくために、2人組から行った。

① 私の本棚（読書による自分探し「自己理解」）

自分が今まで読んできた本をふり回り、ワークシートに記入しながら、ジャンル分けや自分の読書傾向を確認し、自分の本棚を整理していく。その本棚からイチオシの本を友人に紹介することで、自分の気づかなかった面を見つめていくブックトークをSGEという枠の中で体験し、シェアしあう活動を行った。活動のペアづくりは、学習した古文の序段を利用したもので、クラス内の新しいリレーションづくりも考えた。

② 読書スピーチ（好きな本、イチオシの本の紹介「自己理解」「自己主張」「他者理解」）

自分のイチオシの本を友人に分かりやすく紹介し、自分と同じ考えや違う考えを持つ友人を理解していく。

活動後のふり回りでは、「自分を表現するのは難しい。」という生徒もいたが、「相手と共感できた。」「相手の意見がわかる気がした。」「人それぞれだと思った。」など、ねらい達成につながる活動になった。

表2 ホームルーム活動 読書スピーチ学習指導案（略案）

	学習活動	指導上の留意点
導入	1 アイスブレイキングを行う (1) ラッキー7 (2) 名前交換（あいさつ） ・「〇〇が好きな【姓・名】です。」 2 前時の内容を確認する。 3 授業のねらい確認する。	○ 簡単なゲームをすることにより、和やかな雰囲気をつくる。 ○ ペアを確認させる。 ○ 本時のねらいや活動の内容を理解させるため、生徒に注意を促す。 (黒板掲示) 自己理解・他者理解
	4 話し方・聞き方エクササイズを行う 5 ブックトークを行う。 (インストラクション) 6 紹介の原稿づくりを行う。 (ワークシート 「私の好きな本」「私が紹介します」) 7 4人で本を紹介しあう。 (1) 付け足し、質問があれば行う。	○ 聞く態度、話す態度について注意させる。 ・ 否定、批判させない。 ・ 相手にとって心地よい聞く態度を示す。 ○ 活動後の気持ちを2人で話させる。 ・ 支援者の自己開示 ○ 前時のシートにあわせてブックトークをする。 ・ 記入は具体的に示させる。(板書) (自己開示・他者理解)
展開	8 感じたこと、考えたことを4人組で話す。 9 授業のまとめを行う。	○ シェアリング ・ ペーパーシェアリングも可とする。 ○ いろいろな考えがあることを感じさせる。 (他者理解) ○ 自分の読書歴を知り、自分と読書について考えることができたか ふり返らせる。(自己理解)
	10 ふり回りシートに記入する。	○ 後日紙面上(通信形式)で全員の好きな本を紹介する。

桐谷修二さんの人生（ ）

修二さんはクラスの中心グループに属する人気者で、ルックスはさわやか、成績もいいほうです。彼女にしたい女子No.1の鶴原さんが毎日お弁当を作ってきてくれます。しかし、それは一人で過ごす孤独感や寂しさから送れる桐谷修二君のやるみショーであり、修二さんの内心は周りをさめた目で見、すべてを真逆にしているところがあります。

→外見でいじめられていた野ブタさんは修二さんのプロデュースをきっかけに性格の良さを周囲に理解され溶け込んでいきますが、修二さんは内心常に人を小バカにしている嫌なヤツのままで終わります。周囲から見放され、誰とも関係を持つことはできませんでした。

★野ブタ。をプロデュース★



修二
トップを悠々と走っている
と思っていた
彼は、ダサくて嫌われ者の
野ブタを人気
者に育てあげることの思いつく。

「逆すぎたら寂しいし、近すぎたらうっとうしい」

6 人の生き方

今日のテーマは「多様な生き方」です。

生き方は個人によって大きく違うし、どんな価値観を持っているかで人生は大きく違ってきます。今日はそれを考えてみましょう。

次の6人は昨年評判になった作品の登場人物です。それぞれの人生を読み、あなたが好きだと思う人生の順に1～6の数字を（ ）に書き込んで下さい。

廣瀬亜紀(アキ)さんの人生（ ）

亜紀さんは高校2年生の成績優秀でスポーツもできる優等生です。同級生の松本翔太郎(サク)さんと純粋に愛し合います。しかし、亜紀さんは白血病に冒されます。病気が良くなったなら翔太郎さんと一緒にオーストラリアに行く約束で、亜紀さんの誕生日に行こうとしますが、空港で倒れてしまいます。そして短い一生を終えます。

→亜紀さんは亡くなった後でも翔太郎さんの中に生き続けています。翔太郎さんと亜紀さんがいた場所(大切に想い合った空間)が、二人にとって常に世界の中心だったのです。

★世界の中心で愛をさげろ★



サク「人を好きになるってことは、自分よりも相手の方が大切だと思うことだ。もし食べる物が少ししかないければ、ぼくは自分のぶんをアキにあげたいと思うよ。だから、自分の

いいものを食べたいと思う。思えば、ぼくのお腹は満たしたいことは、ぼくが好きな人を好きになるってことだが、他に何かあると思う

電車男さんの人生（ ）

電車男さんはアキバ系ヲタク青年です。性格は内気で消極的です。ネットを通じてのコミュニケーションは取ることができますが、ナマの人間となるとコミュニケーションを取るのとはとても苦手です。

→しかし、電車男さんはネット上の仲間たちのアドバイスに後押しされ、一歩を踏み出すことができました。エルメスさんにも自分がアキバ系ヲタクだということをカミングアウトする勇気を持つことができました。

★電車男★



電車
彼女いない
性関係にはあっても
なかったし、とか正直、
だと思って
出出来るかわからないんだ
事が変わったりする事であ

大崎大輔さんの人生（ ）

大輔さんは海上保安大学校で潜水技術課程研修を受けた潜水士です。何の特殊技能もない平凡な青年でしたが、人の生死を前に凡庸の殻を破り、急速に成長を遂げていきます。「絶対誰も死なせない」という強い意思が原動力となり、奇跡のようなレスキューを成功させていきます。

→大輔さんは、たくさんの仲間や友人からの応援や助け、時には恋人からの深い愛情に支えられながら、人の死や、運命にもあそばされることもあります。自分を失わず前へと進み続けていきます。

★海猿★



大輔「怖いから勇者なんだ…。本当に何も怖くない人がいたら…その人には勇気なんて必要ない。勇者は怖いもの知らずの強い人じゃないんだ。…怖いから、怖いから勇気が必要なんだ…」

大崎ナナさんの人生（ ）

ナナさんは、幼い時から祖母のもとで育ちます。風貌から身勝手なように見え、人間なんて大嫌いだと自分を聞こうとしません。しかし、実は相手のことを考えて行動する大人で、繊細な面も持っています。バンドボーカリストでメジャーデビューを夢に恋人を追いかけるとをせずに自分に実をつけることを選びます。自分でいることにすぐく成長するタイプです。

→しかし、ナナさんは小松奈々さんを始め、たくさんの仲間と出会うことで不器用で逞しい自分から素直な自分へと変化していきます。

★NANA★



ナナ「私今まで特に親しい女友達にいなかったから。どーつき合えばいいか…いまいちよく分かんなくて。自分の事とか自分から話すの苦手だし…」

道明寺司さんの人生（ ）

司さんは財力と持って生まれたルックスにモノを言わせ、行動全てがゴージャスです。「金で買えないものはない」と豪語しています。人の心は金次第で簡単に変わるものと思っています。金持たちがゆえに幼少の頃は、友達ができず、屈折した思いを抱えています。両親共に仕事で自分のそばにいないため、自分は親に愛されていないという思いがあります。思考は短絡的で、ケンカも強く暴力的なところがあります。媚びる女性が大嫌いです。好きな女の顔ではウブだという一面もあります。

→しかし、つくしさんと出会ったことで少しずつ、その性格が変化していきます。つくしさんも道明寺さんのよさに気づき仲良くなっていきます。

★花より男子★



道明寺
「あいつが誰を好きだろうとどーでもいいわいってやる」

資料6 6人の生き方

ワークシート

③ 6人の生き方（昨年評判になった作品の登場人物の生き方「価値観の多様性」）

オリジナルの「教材」を作成した。テーマは多様な生き方で、昨年評判になった作品の登場人物の生き方を示した。それぞれの人生を読み、自分が好きだと思う人生の順に番号をふった後、4人組で「なぜその順番をつけたのか」を話し合うという活動を行った。本教材を作成したのは、中高校生がよく知っており、強い興味、関心を持っているものであれば、本音の部分を引き出すきっかけになる。また、原作本を読んでみようという読書への喚起を促すきっかけとなることを期待したことが理由である。よく知っていたからこそ4人でのシェアリングも活発に行われ、価値観の多様性を知る活動になったと言える。

(3) 生徒の変化

活動後のふり返しを見ると「本に対する考えは人それぞれだと思った。」や「友達から本の紹介を聞いて自分も読みたいと思った。」など、「朝の読書」の展開の一つとなったように感じる。また「自分のことをもっと話せるようになりたい。」「もっとちゃんと自分のことを話したい。」など自分を知り、自分を表現したと思う気持ちの高まりを感じることができたのではないだろうか。同時に「相手の気持ちが分かるような気がした。」「他の意見も聞きたかった。」「相互理解に近づけた。」など友人（他者）を理解し、クラス内のコミュニケーションが広まったようにも感じている。

6 まとめ

(1) 小学校での成果

- ① 読書に対する興味関心を持つ子どもが多くなり、読書習慣の確立に繋がった。
- ② 子どもたちに集中力がつき、「聞く」から「聴く」に変化してきた。
- ③ 仲間づくりの手法を取り入れたことで、子どもたちがかわり合う機会が増えた。子どもたちに学び合う環境づくりができつつあり、他の学校生活の中にも生かすことができると思われる。
- ④ Q-Uのプロットにも表れているように、学級内の心と体の安全が確立され、河村茂雄(2004₃)の言う「学級生活を主体的に送ろうとする意欲」を持つ子どもが増えてきている。

(2) 高等学校での成果

高等学校学習指導要領、特別活動の内容Aの(2)ア、(3)を考えると、今回研究した読書指導の提案は意義があると考えられる。

- ① 生徒に自己発見があり、自己理解を深める機会となった。
- ② 友人の読む本を知ることや意見を交換することにより、友人(他者)を理解をすることができた。
- ③ 多様な価値観を知ること、さらに自己理解を深めることができ、自分の生き方を考えるキャリア教育への繋がりも示すことができたと感じている。

7 今後の課題

学校教育において、継続的に読書指導を行っていきけるシステムづくりをどのように提案していくかが今後の課題である。村上(2005₂)は「教育現場でいろいろな実践に取り組む時、こんなふうに子どもたちは育つだろうといった成果や達成目標があるが、読書指導はこのように成果などを求めるものではない。」と述べているが、これまで提案した内容を検証していくことは、読書指導の充実に繋がると考える。また、小学校では「読み聞かせ活動」をPTAやボランティアにつないでいくこと、そして、高等学校では、生徒の主体的・意欲的な読書活動を充実させるための読書指導計画を具体的に提案していきたい。さらに、「高知県子ども読書活動推進計画」に基づいた学校での具体的読書指導計画の提案を行うことで読書指導の充実に寄与していきたい。

〔参考・引用文献・参考資料〕

1)	脇 明子	『読む力は生きる力』	岩波書店	2005
2)	村上淳子/天道佐津子(編)	『読書と豊かな人間関係の育成』	青弓社	2005
3)	河村茂雄(編)	『学級崩壊予防・回復マニュアル』	図書文化	2000
4)	長倉美恵子(編)	『子どもの読書活動をどう進めるか』	教育開発研究所	2004
5)	村上淳子	『先生、本を読んで!』	ポプラ社	1995
6)	笹倉剛	『感性を磨く「読み聞かせ」』	北大路書房	1999
7)	河合隼雄	『絵本の力』	岩波書店	2001
8)	松岡享子	『えほんのせかい こどものせかい』	日本エディタースクール出版部	1987
9)	マーブルブックス(編)	『私が1ばん好きな絵本』	マーブルトロン	2004
10)	松居直	『絵本の現在 子どもの未来』	日本エディタースクール出版部	2004
11)	松居直	『絵本のよこび』	NHK出版	2003
12)	松居直	『絵本の森へ』	日本エディタースクール出版部	1995
13)	滋賀県SLA中学校部会ブックトーク研究会(編)	『ブックトーク12ヶ月』	全国学校図書館協議会	2004
14)	代田知子	『読みきかせわくわくハンドブック』	一声社	2001
15)		『絵本のたんけん』	高知県立図書館	2001
16)		『おはなし宝島』	高知県立図書館	2003
17)	片野智治(編)	『構成的グループエンカウンター事典』	図書文化	2004
18)	片野智治(編)	『エンカウンターで学級が変わる高等学校編』	図書文化	1999
19)	プロジェクト・ベンチャー・ジャパン	『グループのちからを生かす』	みくに出版	2005
20)	河村茂雄(編)	『Q-Uによる学級経営スーパーバイス・ガイド 小学校編』	図書文化	2004
21)	河村茂雄(編)	『Q-Uによる学級経営スーパーバイス・ガイド 高等学校編』	図書文化	2004
22)	子どもと本を楽しむ・子どもの本を楽しむ子どもの本のホームページ http://www2u.biglobe.ne.jp/~hizakozo/menuright.htm			